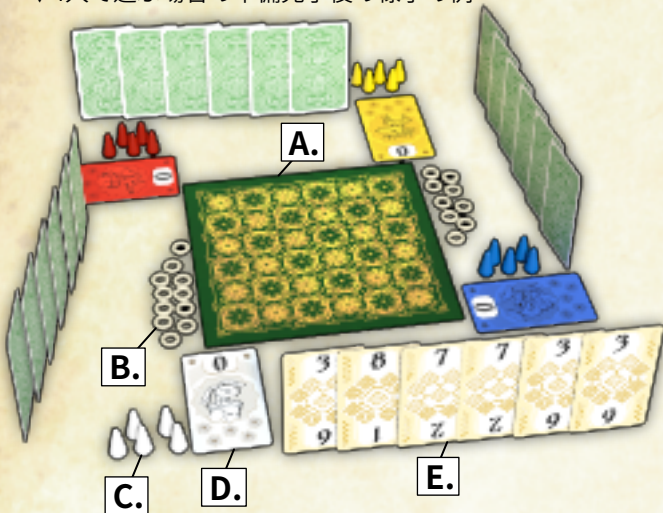


内容物と初期配置

▼4人で遊ぶ場合の準備完了後の様子の例



【内容物の内訳】

- A. ボード (1枚)
B. リング (20個)
C. 木駒 (4色5個ずつ、計20個)



- D. 精霊カード
(2種類2枚ずつ、計4枚)
…表裏を使って4色1枚ずつのカードとします。



- E. 祝福カード
(4種6枚ずつ、計24枚)
…数字が書かれている面が表です。

ゲームの準備

- テーブル上の全員の手の届くところにボードを置き、その近くにリングを全てまとめて置きます。
- 各自、精霊カードを一枚ずつ受け取り、各々異なる色の面を表にし、その色の木駒(以下、単に「駒」)を全て受け取り手元に置きます。
- 適当な方法で初手プレイヤーを決めます。
- 祝福カード(以下、単に「カード」)全てを裏向きでよく混ぜ、全員に手札として6枚ずつ配ります。手札は持ち主だけが表を見ることが出来ます。
- 残ったカードは裏向きで箱に戻します。
- 各自同時に、手札を2枚選んで両隣のプレイヤーに1枚ずつ渡します。このとき隣から渡されたカードは手札に加えます。

ゲームの流れ

ゲームでは、ラウンドを3回行います。

ラウンドの流れ

ラウンドでは、初手プレイヤーから座順時計回りの順に手番を繰り返します。

手番の流れ

手番では、手元の駒を1個、ボード上の任意の空きマスに置きます。

手番でできることがなければ、手番を飛ばされます。全員が連続して手番を飛ばされたら、ラウンドが完了します。

ラウンド終了時にやること

ラウンドが終わったら、最後に手番を行ったプレイヤーから座順時計回りの順に、〈カードの公開〉と〈生存処理〉を行います。

全員がこれを終えたら、〈勝者判定〉と〈経時処理〉を行います。

〈カードの公開〉

手札から手元にカードを表向きで出します。

手札から出すカードの枚数は、1ラウンド目なら1枚、2ラウンド目なら2枚、3ラウンド目なら3枚です。

カードを出すとき、カードに書かれた2つの数のどちらかが上向きになるように出します。下向きの数は、そのカードに書かれていないものとして扱います。※

2ラウンド目からは、ここで前回のラウンドで出したカードを全て手札に戻します。



〈生存処理〉

ある駒の置かれたマスに辺または角で接する周囲8マスに置かれた駒の数を、中心のマスにある駒の「近傍総和」と呼びます。

近傍総和 = 4

自身の駒のそれぞれについて、その近傍総和が自身の手元に置かれたカードが精霊カードに書かれているなら、その駒に、ボードの脇に置かれたリングをはめます。



▼4人で遊ぶ場合の第3ラウンド
終了時の局面の例



▲上の局面での勝者判定：

白プレイヤーは5個、赤プレイヤーも5個、黄色プレイヤーは4個、青プレイヤーは3個の駒に輪をはめて、生存させることに成功しています。

白のプレイヤーの公開したカードの数字の合計は3+8+7=18で、赤のプレイヤーの公開したカードの数字の合計は3+6+5=14です。(なお、白のプレイヤーの出した8と7のカードは、駒の生存には寄与していません。)

結果、このラウンドの勝者は白プレイヤーとなります。このラウンドは3ラウンド目なので、ゲームの勝者も白プレイヤーとなります。

〈勝者判定〉

最も多く、自身の木にリングをはめたプレイヤーが、このラウンドの勝者となります。

そのようなプレイヤーが複数いたら、そのなかで手元のカードに書かれた数の合計が最大のプレイヤーがこのラウンドの勝者となります。

そのようなプレイヤーが複数いたら、そのなかで最後に生存処理を行ったプレイヤーがこのラウンドの勝者となります。

これが3ラウンド目なら、ラウンドの勝者が決まった時点でゲームが終了します。

〈経時処理〉

まず、リングのはまっている駒を全て持ち主の手元に回収します。

そののち、リングを全てボードの脇に戻します。

このラウンドの勝者が初手プレイヤーとなって、次のラウンドに移ります。

公開したカードは、そのまま各自の手元に置いておきます。

ゲーム終了時にやること

最後のラウンドの勝者が、ゲームの勝者となります。

3人用ルール：霊木

3人で遊ぶとき、精霊カードは3枚使い、残りは箱に戻します。また手番では、誰のものでもない駒をボードに置くことができます。この駒を「霊木」と呼びます。

- 霊木は近傍総和に加算されます。
- 生存処理の際、霊木にはリングをはめません。
- 経時処理の際、霊木は全てボードの脇に戻します。

2人用ルール：従木

2人で遊ぶとき、精霊カードは2枚使い、残りは箱に戻します。準備の際、自身の精霊カードの色の駒以外に、相手の色ではない駒を5個追加で受け取って手元に置きます。この駒を「従木」と呼びます。

また、各自手札は9枚ずつ受け取り、そのうち3枚を選んで裏向きで箱に戻し、残った6枚を使います。

- 手番では、手元の駒を2個、空きマスに置きます。色は同じでも異なっても構いません。
- 先手プレイヤーのラウンド最初の手番では、駒は1個だけ置きます。
- また、手元に駒が1個しかなければ、手番では駒を1個置きます。
- 生存処理の際、従木にはリングをはめません。
- 経時処理の際、従木は全てボードから取り除き、それを改めて各自5個ずつ受け取り手元に置きます。

© 2026 空理計画 info@kuuri.net

<https://www.kuuri.net>

ゲームデザイン、アートワーク：はくし

初出：ボドゲガレッジダンジョン2026秋／

ゲームマーケット2026秋

マニュアルバージョン：r20261000

テストプレイ協力：いもぎん、和泉葛城、EJPゲームズ様、カードショップサトPin様、リトルケイブ様

作品のサポート情報：
<https://www.kuuri.net/game/forest/>



空理計画

